御射山神戸の一里塚

一里塚は、国道２０号から旧甲州街道を少し上った御射山神戸の北外れにある。江戸の日本橋から４８里目（49里との説もある）といわれ、明治中頃まで役割を果たしていたとされる。

江戸時代に徳川家康が定めた五街道には、道中の目安として１里（約４㌔）ごと５間（約９㍍）四方の塚が両脇に作られ、旅人が休めるようにエノキやケヤキが植えられた。1610（慶長15）年ごろ甲州街道が下諏訪まで延長された際、一里塚もつくられたと考えられている。

塚は今も道の両側に残っており、西塚には当時植えられたとされるケヤキがそびえ立つ。樹齢は約400年、目通りで幹の太さが6．9㍍、樹高は約25㍍の巨木に成長し、塚をがっしりとつかむように根を張っている。富士見町教育委員会によると「甲州街道で塚・ケヤキともに往時のものが保存されている例は他になく、貴重な存在」という。

1965年４月25日指定
所有者／富士見町御射山神戸区